

令和4年度第4回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和4年10月25日（火） 9時00分～

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター 10階 101会議室

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、高梨委員、沼田委員、桜井委員、谷委員

（事務局）神田生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、川口文化振興課長補佐、松田文化振興班主査、安藤主任主事、鈴木主任主事

4 議題

- （1）第2次千葉市文化芸術振興計画総括
- （2）芸術祭基本構想について

5 議事の概要

- （1）第2次千葉市文化芸術振興計画総括

第2次千葉市文化芸術振興計画総括について、意見交換を行った。

- （2）芸術祭基本構想について（議事要旨）

芸術祭基本構想について、意見交換を行った。

委員からは以下の意見が挙げられた。

○外向きよりは、内向きの形で千葉市の方に知ってもらおうというイメージで構想したほうが良いのではないか。

○周遊性について、前回の千の葉の芸術祭では、1日で観覧することが難しかった。

○芸術祭について、有料にするか、無料にするか今後検討したほうが良いのではないか。

○思わぬ観光資源として、文化芸術と歴史や地域の産業などと絡めると、千葉市らしさが出るのではないかと思う。

○構想の具体的なところは総合ディレクターの選任後でないと、意見が言いづらい。

○総合ディレクターは文化芸術の専門ばかりではなく、観光や、地域のことを熟知していて、地域の新しい魅力を発展できる人材に担ってもらったほうが良いのではないか。

○市内外の人の千葉市に対する、愛着効果の拡大により、結果的に千葉市の経済発展に繋がっていく可能性があるため、構想のどこかに、愛着を高める効果が記載されてもよいのではないか。

6 会議経過

【神野委員長】

ようやく日常を取り戻すというか、コロナ前の状況を取り戻しつつあります。以前の会議でスケジュールとして示されていたとおり、第2次千葉市文化芸術振興計画総括の内容について審議することになりますが、まずは事務局からご説明をお願いいたします。

<事務局説明>

【神野委員長】

事務局からご説明のあった件について、委員の皆様からご意見いただければと思います。これまでの積み上げ数値を全体で俯瞰できるように、表やグラフにまとめていただいたということだと思います。一度目を通していただいて、ご確認いただければと思います。最終的には、総括の最後のページにある意見を埋めるというイメージと思われます。数値を取りまとめたものであり、施策によっては件数の少なさから、妥当性が気になるところもあると思います。全体的な傾向などもあると思います。それではご意見がありましたら、よろしくご意見をいたします。

【桜井委員】

最終ページの事業数の推移について、情報の効果的な発信と魅力ある資源の活用の2項目について、実施された施策数が少ないと明らかになっておりますので、千葉市にとって、この2項目が苦手な分野であると思われます。この会議で出た意見などを集約されて、それがなぜなのかということについて、具体的なイメージとなるものを、全体総括・次期計画意見に埋められたらよろしいかと思います。

【神野委員長】

ありがとうございます。基本施策4「千葉文化の担い手をつなぐ」と基本施策5「文化芸術によって千葉の魅力を活かす」という2項目が千葉市は少し弱いというご指摘でした。

【椎原委員】

桜井委員のご意見に反応するというわけではないのですが、行政評価のシステムそのものがこのような結果となるというものが示されていると思います。推移を見ていると、平均値をたどっていつていることがわかります。状況が好転しているのかどうかここからはわかりません。明らかにコロナ時は評価が低くなりますが、事業を見ても悪いところを継承して評価が低いのか、新たな悪いところが発見されて評価が低いのか判断ができません。広報については、評価するときに、わかりやすい指標になりますので、必然的にこのような結果が出てしまう印象があります。資料を見ますと、いまひとつということしか見ることはできませんが、みなさんのご意見も伺いたいと思います。

【神野委員長】

平均化された数値をまとめていると、ある程度の傾向というところは見えてくるけれども、文化事業それぞれに課題があるので、現状の評価では、それについてどのように改善されたかなどを把握することができないので、今後は評価の仕方や指標の出し方など検討が必要だと思えます。

【関委員】

資料を見ていると、良い点も悪い点も広報ということで、椎原委員がおっしゃっていたとおり、同じような状況が継続している状況であると思えます。

自分が経験してきたこととお話しますと、千葉では広報は難しいとずっと言い続けていると思えます。自分は岡山でも広報をしたことがあります。岡山は地方都市ですが、テレビ、新聞などの地方都市としてのマスコミもしっかりとしている印象です。

一方で、千葉で広報するなら、若いころは東京で有名になって千葉に戻る、または、海外に行かないとダメなのか。など考えて、なかなか千葉だけでは難しいのかなという印象でした。

ただ、時代が変わってSNSやインターネットが出てきたことにより、それらを活用した広報をもっと検討したりすることもあります。演劇などでは、SNSでつながった関係ではなく、きちんと声をかけたところから呼ぼうという傾向もあります。

千葉市の広報は、戦略的な検討を行わずに、広報は難しいという状況が継続してしまっているのではないのでしょうか。

広報と簡単に言っていますが、広報戦略の観点を持つなど、もっと厳密に扱うべきだと思います。

【神野委員長】

繰り返しの課題になりますが、戦略的な広報ができていないということ。様々なチャンネルがある中で、どのように戦略的にユーザーにアプローチするかなどを検討し、実施することで、見えてくる場所もあると思えます。そのような戦略的なアプローチからの課題ではなく、市政だよりに載らないなど、短絡的な結果から評価をしているような印象があるということですね。

これについては千葉という都市東京志向という側面もあると思えます。千葉日報や千葉テレビなど地元の特化したメディアが全国ネットの放送局とが近いというところで大変なご苦労をされていると思えます。岡山と比べてシェアの点など、難しいところがあると思えます。

評価については新しく挑戦したことなどを積み上げられ、それが評価される形になると、改善するという意識がより印象付けられるので、その点を考慮されるとよろしいかなと思えます。

【沼田委員】

広報と言いますか、弊社の方ではデジタル化が大きな課題となっております。紙媒体のものから、WEBメディアに移行しており、日々、多くの人に読んでいただけるよう工夫しております。非常に大きな産業として立ちはだかっているものがYahoo!のようなプラットフォームの存在とでして、そちらと共存している形になります。プラットフォームは力が大きく、その力がないと拡散しないという現状もあります。

一方で、ニュースを読まれない、スマートフォンを普段使わない、そして、読みやすいという観点から、紙媒体を好まれる方もいらっしゃいます。

それぞれの状況にあった形で情報を丁寧にお届けするというを社員一同苦心して行っております。WEBサイトに限らず、メールで見せる、SNSで見せるなど様々なプラットフォームのみなさまと協力しながら進めていますが、人的リソースや費用が課題になるのではないかと、個人的に思っております。

【神野委員長】

現場からの課題をいただきました、マスコミでも難しいということですので、現実に沿った広報を考えていく必要があるというご意見になろうかと思えます。

【椎原委員】

C評価一つ見ても事業規模が全然異なっていて、20人定員のところ5人しか集まらず、広報が不足しているという点でC評価にしていた事業があったと思えます。

それを1つとしてカウントし、悪いところとして拾ってってしまうので、広報が不足しているということが相対化してしまっているというところが気になっています。

広報の場合集客数を評価としてしまうので、評価が定数になってしまい、指摘しやすいということがあります。広報不足が継続してしまっているという悪い点もありうると思えますが、人が集まらなかったから広報に問題があるのではなく、企画内容やプログラム上に問題がなかったかなど、本当の問題を見逃している可能性がありうると思えます。

ただ、出された資料からは、そのあたりが推し量れず、出されたもので評価せざるを得ないというところが、この評価システムの課題であり、平均値から計画が順当に進んでいると評価できる点でもあるというジレンマがあることを感じています。

また、先ほどお話がありましたプラットフォームについて、これは市と県のどちらが主体となって進めるのかという課題はありますが、WEBサイトを拝見すると千葉日報の文化欄など充実されていると思えます。プラットフォームがマスコミなのか、行政なのかということは大きくて、10年くらい前に神奈川県が審議委員をずっとやっていた時に「マグカル」というプラットフォームを県が設立しました。WEBサイトの構築になりますが、公認事業が一つにまとめられています。横浜市や川崎市しか文化がないと言われているところを、綾瀬や座間など様々な市町村の文化的事業を集約し、一括で見られるようにした形です。これは県の運営になります。

千葉は市で行うのか、県で行うのかというところでは、市で行うには情報量が少なすぎるように思えます。中央区、若葉区で絵手紙展をやるなどが掲載されても、それが文化振興になるかはちょっと違うように思えます。

千葉市でプラットフォームを運営することは矮小化してしまうので難しいと思えますが、ないのも問題だと思うので、県と連携してというのでもいいのではないかなと思えます。こちらは広報の可能性についてという意見になります。

【神野委員長】

広報が不足しているということばかり注目されて、プログラムの問題などが見逃されてしまうというご指摘と、どこに必要な情報を発信していくか、会議内でもありましたが、高齢者には紙媒体で提供しないと伝わらない、若い人にはWEBでないと伝わらないなど、テクニカルな話も多くしてきました。ただ、この時代の中では少なくともWEBサイトについては最低限必要だろうと思われそうです。

千葉市は政令指定都市なので、県から独立して市を運営されているけれども、包括的なところや文化のところについては市の境を超えて連携が必要だと思います。県と連携してプラットフォームを考えることも検討していただけたらいいかなと思えます。

【谷委員】

広報のことは委員長がまとめられたとおりでと思います。事例として、北海道大学のプロジェクトでフェイスブックを使ったWEBマガジンを学生が中心となって運営している「いいね！Hokudai」があります。季節ごとの写真にコメントを付けたり、北大の10大ニュースなどが掲載されており、更新頻度が非常に高いです。

発信をマスメディアにお任せにしてしまうのではなく、今後の文化の担い手である人たちや学生などにWEBサイトを運営していただき、ネタを提供してもらうのが良いと思います。ただ、継続的に行うのは手間もかかりますし、大変なことだと思います。

高齢の方など紙媒体を重視する人から、SNSを中心として情報を得る人まで、違いはあるでしょうが、いずれ高齢の世代も入れ替わり、リテラシーを持つ人も増えてきて、デジタルメディアを利用した広報がより行いやすくなる未来が来るかもしれない。行政の側がデジタルメディアの活用など意識的に育てていく必要があるのかもしれないです。今は端境期で難しい時期ですが。文化芸術の領域については、画像・動画なども活用したのデジタルメディア化を後押しする機運の醸成が必要なのだと思います。広報が不足しているという状況にとどまるのではなく、なぜ不足しているのかという課題提起のような形で総括に記載されると良いかと思います。コロナ禍における各事業の工夫などを知見として、後に伝えられるようなものがあると良いと思います。

【神野委員長】

課題に挑戦したことについて、改善という観点から評価をしていく、そしてその課題解決法を共有することで、他の事業の課題解決の参考となるということだと思います。

コロナのことにに関して、大学でもオンライン授業について100%になった後に、また、全部対面に戻してほしいということがありました。学生たちは対面が望ましい事業もある一方で、繰り返し動画を再生できるオンラインのほうが良いという意見など色々と意見があります。保護者から家に子供がいるとさぼってるように見えるというご意見をいただくこともあります。

コロナ禍で新たに取り組み、効果のあったことは引き続き継続するという、良い点は引き継いでいってほしいと思います。

【高梨委員】

課題改善について、成果を上げた好事例や、挑戦中の課題をQ&Aのような簡単な形でまとめられたらいかがかと思います。

また、あらゆる世代に波及させることを目的に、産官学などのプラットフォームもご活用されたらいかがでしょうか。

【神野委員長】

評価の中で出ていた事例を他の活動をされている方に共有し、活用いただくというご意見だと思います。

【関委員】

広報は公演を広める手段だと思うのですが、広報をしたからといって、必ず人が来るというわけでもなく、広報と集客は必ずしも結び付くものではないです。

つまらないプログラムを広報し、情報が皆さんにいきわたっていても、集客につながらない可能性もあります。

【神野委員長】

プログラム内容などに工夫をして、事業を行っているのに集客がされないという時点になって初めて、広報に課題があると検討すべきというご指摘と思います。

人が来なかったことについて何が足りなかったのか、内容かもしれませんが、広報が足りていないのかもしれませんが、そちらについてきちんと分析をしないと、根本的な課題はわからないのではないかと思います。

【谷委員】

「ちばし安全・安心メール」は、登録すれば防犯情報や気象情報を送ってくれるものです。広報のただ知らせるだけという問題点はとりあえず置いておいて、市政だよりですと、市民に情報が届くのは月1度になると思います。安全・安心メールは、デイリーに送られてくる。市の職員の方が運営するのは難しいと思いますが、文化芸術イベントについても、登録した方に対して、イベントの概要が決まった時点でデイリーにお知らせする、安全・安心メールの文化芸術版があればいいと思います。

【椎原委員】

この会議内では、千葉市美術館の展示会の評価そのものは行っていないと思いますが、生涯学習機関的な側面などから、企画展の内容についてどこか別の部局などで、きちんと評価されているのでしょうか。

【事務局】

美術館につきましては、文化振興課で所管しており、議会から頂戴するご意見などについて、数値でお示しなどはさせていただいております。

また、美術館内部では、外部の方を交えてどのように運営を行っていくか伺う機会を設けております。

【椎原委員】

美術館には当然評議委員会のようなものがあって、評価されていると思いますが、その結果などが、振興会議で報告されていません。

この会議内では、一つの事業について細かく議論するところではないのですが、千葉市のメインとなる集客の見込める文化施設なので、所管にしては評価に関する扱いが弱いように感じました。

【事務局】

指定管理となりますので、指定管理委員会で運営や入場者数などから評価いただいております。

【神野委員長】

今の椎原委員のご意見としましては、事業ごとの評価とは別に、千葉市の中核的な存在である、美術館について、展示会の評価などを確認するべきではというご意見だと思います。

こちらについては所管である文化振興課も、美術館が高い専門性を持っているというところであまり関与していなかったところだと思いますが、館としての専門性は重視できているかもしれませんが、千葉市の方針に沿って美術館があるという関係が見えづらいということがあります。

指定管理のところはある程度はクリアできていると思いますが、文化施策についてこの評価に位置付けられている感じはしないです。

評価全体について、数値から出てきた課題など、ご意見をお伝えするのがなかなか難しいと思います。

広報についてのご意見がありましたが、何が課題で、どのように対応することで、改善の観点を持っていただきたいという点と、成果・課題などをほかの所管と共有し、それぞれの知見を活かすというご意見もありました。

そもそも、広報とプログラムを切り離し、分析を行うべきというご意見もありました。こちらについて未来志向的な評価などがなされても良いと思います。

広報については多くの課題がある中でどうアプローチしていくかということもあります。

ポジティブに生かせるものが次回の計画に活かされればと思います。